姉属性専門誌
全姉連会報
全姉連会報
16
ZEN-ANE-REN
PRESENTS
ELDER SISTER
ONLY MAGAZINE

全姉連会報 第１６号

表紙イラスト：珠樹やよい様（やまぐちぷりんと）

タマ姉好きにはご存じの方も多いはず、サークル「やまぐちぷりんと」の珠樹やよい様に表紙を描いていただきました。ありがとうございます！

左から『IS インフィニット・ストラトス』の織斑千冬姉さん、篠ノ之束お姉ちゃんです。

表紙をやらせていただきました珠樹やよいです。
今回全姉連さんとのやり取りで IS キャラとなったのですが、
あらためて本編に思いをはしらせてみると、実に好対照の二人ですよね。
ときにアニメの温泉の回でヒロイン 5 人の前で千冬姉が
ビールあおって圧倒的な姉の貫禄を見せ付けたシーン、
アニメではサッと消化してしまいましたが原作ではかなりしっかり描写されてまして、
ここがまた痺れるほどに、ナイス姉。IS 好きで未読の方は是非是非。

姉コミック『あねまん』（七瀬瑞穂）

姉漫画家・七瀬瑞穂先生のコミック3冊目。今回もいろんなお姉ちゃん、取り揃っています。

姉コミック『Swing Out Sisters』（東雲太郎）

姉コミックの名作、ついにアニメ化＋ノベライズ。今あらためて原作を振り返ります。

姉コミック『満開！Sister』（東屋めめ）

ある日突然降って湧いた義理の姉妹。これは負け組にこそ楽しめる姉4コマ。

姉コミック『姉は傍にいまし、世はなべてこともなし』（清水邦彦）

弟に興味津々な変わり者の姉とその弟の、平穏のようで平穏でない日常。

姉ノベル『百合×薔薇』（著・伊藤ヒロ イラスト・高見明男）

姉の命令で女学園へ共に通わされる弟。一風変わった女装潜入系の姉ノベル。

姉ノベル『アネかみ！』（橘ぱん）

弟のパンツは誰のもの！？ ブラコン姉 VS 女神様のラブコメバトル勃発！

姉ノベル『あまあねハーレム 四姉妹と無人島！？』（著・上原りょう イラスト・YUKIRIN）

無人島に流れ着いた姉4人と弟。サバイバル生活はお姉ちゃんのおっぱいで乗り切れ！

姉ゲー『おねガン！』（スタジオ5気筒）

突如現れた姉志願者 vs 実姉の弟争奪戦。どちらが姉に相応しいか、勝負の行方は？

全姉連のレビューは「姉萌え」至上主義。評価基準は、「姉萌えか否か」。

本文中で引用した画像、文章の著作権は、すべて各メーカー様、著者様にあります。

あねまん

著者	七瀬瑞穂
発行	メガストアコミックス
発行日	2011 年 10 月 14 日

■姉作家・七瀬先生 3 冊目!

もはや姉コミック好きにその名を知らぬ者は居ない、七瀬瑞穂先生３冊目の単行本が発売！

既刊の単行本『姉づくし』『なま姉』も、徹頭徹尾姉オンリーで楽しませていただきましたが、今回の新刊『あねまん』も当然100%姉コミック。ぎゅうぎゅうに詰まっています。

姉系が得意で、姉モノ・年上モノを中心に描く成年コミックの作家さんは何人もいますが、七瀬先生は姉属性―より正確には姉弟属性または実姉属性―にとって、一歩抜きん出た姉漫画家なのです。

■実姉至上主義のこだわり

姉漫画家には、ヒロインが先輩、女教師、幼なじみお姉さんなど、広い意味での「年上おねーさんと年下の男の子」という組み合わせで姉モノを描く先生も多くいます。姉好きではあるけれど、ショタ属性も好きで、その要素を重点的に描かれる先生も見かけますが、その点、七瀬先生の場合は実の姉弟にこだわります。

先輩や女教師などの「おねーさん」モノが良くない訳じゃありません。ただ、

「俺は年上好きだから姉属性なんじゃない。近親関係の姉弟が好きなんじゃー！」

との信条を持つ姉マニアには、単なる年上女性×年下男性の組み合わせでは物足りない。

「ダメっ、私たち姉弟なのに……！」

「姉弟だから、こんなにドキドキしちゃうのぉ！」

のように、背徳感や興奮の理由が姉弟関係にあるから熱くなれる。

それをきちんと描いてくれているのが七瀬先生の姉コミックです。

■多彩なお姉ちゃん達

登場するお姉ちゃん達は、強気に弟を責めるタイプ、本当はブラコンなのに素直に表現できずにいじめてしまうタイプ、甘甘の甘やかしタイプなど多彩。

一方で弟の方も、姉の攻撃に流されるままの弟くんあり（このタイプが主流）、逆に積極的にお姉ちゃんを求める弟くんもあり。

しかし、どんな組み合わせであっても、結局は姉弟のお互い仲良しなシスコンブラコンイチャイチャ漫画。姉を責め堕とすような下克上スタイルの漫画はほとんどないので、その点を安心と取るか不満と取るかは各人の嗜好次第です。

『あねまん』収録の 9 話＋描き下ろし 1 話で目立ったのは、姉が２人のパターン。弟を取り合うこともあれば、一方の姉がもう一方の姉の背中を押して協力するのもあり。姉弟関係だけでなく姉妹関係も読み取りながら楽しめました。

■名話ピックアップ

「姉弟姉（前後編）」

生徒会室で濃厚なキスを交わし、激しいエッチを始める女子高生２人。

それを見せつけられ、いい加減にしろよ！といきり立つ男子生徒。

これは、姉２人組とその弟だった！？

弟がのけ者という珍しい導入で始まる、「姉・姉・弟」の話。

次女・咲姉は男嫌いで、長女の涼姉のことが大好き。

今日もこうして性的に姉妹愛を確かめ合っているが、弟とも仲良くなって欲しいと願う涼姉は、自分が弟と交わる所を見せつけ、妹を焚きつけようと思い立ち……。

その目論見はまんまと成功し、続く後編では、素直になった咲姉が自ら弟を求め、３人で仲良く激しい行為に発展。

しまいには「姉・弟・姉」になりました。めでたしめでたし。

初めから妹と弟の２人に優しい涼姉ちゃんと、ツンからデレる咲姉ちゃんの対比が鮮やか！

「あねぱんっ」

姉のいない間に部屋にスネークし、お姉ちゃんのパンツをあさっているところを御用となった弟くん。

いくら弟でも、やって良いことと悪いことがあるのよ、などとお説教（こんな時、やだキモいとドン引きするのではなく、弟の気持ちを汲んだ上で教え諭すのが良い姉）されている場面を見ると、どうやら弟は常習犯の様子。

「別にいいじゃん、今さらパンツの一枚や二枚」と開き直る弟に愛の鉄拳制裁を加えて反省させるが、じゃあ代わりに大好きなお姉ちゃんのはいているパンツを直接嗅がせてよとおねだりする弟くんを拒めずにお姉ちゃんは……。

チョロいお姉ちゃんってイイネ！

弟に押し倒されたかと思ったら、主導権を奪い返し、甘いブラコン姉の素顔を覗かせる終盤まで楽しめます。

「あねねね」

薄暗い体育倉庫、体操服にブルマ姿のポニテ女子高生。

「こんな所で……人に見られたらマズイよ……はぁはぁ……」と声を上げているのは、弟の方だった！？

弟の困惑した顔に興奮し、股間にかぶりつく姉。何かにせき立てられるように弟にまたがる姉がフィニッシュを迎えると同時に乱入して来たのはもう一人の姉！

実は、弟を賭けて勝負する姉２人のうち、下の姉が抜け駆けしていた最中だったというわけで、王道の弟争奪モノ。

陽気で活発、ストレートに弟好き好き攻撃を仕掛ける次女・岬姉さんに対し、長女・鈴姉さんは高飛車生徒会長的なドＳ姉。徹底的な足攻撃で弟を責めながらも、秘めたブラコンは隠しようがなく、最後にはだらしないお姉ちゃんの顔に。

姉２人からの一方的な弟争奪に巻き込まれる話ならば、オチはぐったり精根尽き果てた弟というのもお約束です。

「姉りぞーと」

プライベートビーチ付きの別荘に遊びに来た姉２人とその弟。

水着姿の姉たちと戯れていると、徐々にエッチな展開に……。

一見大人しそうで、精神的にも肉体的にも包容力のあるお姉ちゃんがニコニコしながら足で責めてきたり、金髪に小麦色の肌、白スク・貧乳気味の、小うるさい妹っぽい姉からツンツンいじられたり、ちょっとしたギャップ萌えをそそる作品。

開放的なリゾート気分にふさわしい、明るい姉弟のイチャイチャが展開されています。

「いじめてよ姉っ」

好奇心で SM 衣装とグッズを通販した姉。

試着している所を弟に見られてしまうが、口封じのためにプレイに付き合わせることになり……。

七瀬先生お得意の、強気に弟を責めるお姉ちゃんの魅力がたっぷり。

ＳＭ初心者なのに、やはりそこは姉だからか、弟相手にノリノリで女王様を演じる姉と、初めは戸惑っていたのに徐々に目覚めてしまっていく弟くん。

ボンデージ衣装でムチ、そして姉足責めされ、文字通り尻に敷かれる弟くん。

我慢できずお姉ちゃんにおねだりする弟。姉は、変態な弟へのオシオキと称して……。

お姉ちゃんが心底ドＳなのではなく、あくまでプレイを通じて姉弟で楽しんじゃっているスタンスなので、軽度のＭっ弟読者でもきっと興奮できるハズ。

■姉こそ至高のポリシーのもと…

姉オンリーコミックも通算３冊目となり、すっかり手慣れてきた感のある新刊でした。

姉こそ至高とのポリシーはブレれずに貫かれ、Ｈシーンはよりハードに。

今回は「妊娠」をキーワードにして、姉弟間の背徳感も煽られていて、その手のセリフが好きな弟にはたまらない内容。

次の新刊が早くも待ち遠しいですね！

Swing Out Sisters

著者	東雲太郎
発行	TENMA COMICS
発行日	2005 年 8 月 12 日

■古典的名著「S.O.S.」

今や東雲太郎先生と言えば、『キミキス』や『アマガミ』のコミカライズを担当した漫画家さん、と紹介した方が一般的には早いのでしょうが、姉の道に入ってから長い姉マニアには『Swing Out Sisters』の東雲先生でしょ？　と思う人が大半。

それほどに先生を代表する有名姉コミックが、通称『S.O.S.』の本書です。

2005 年に発売された単行本ですが、今あらためて取り上げたのは、2011 年 11 月にアニメ化（OVA にノベライズ、原作コミックがセット。）が決定、発売されることになったから。

ということで、多くの読者にはおさらいになってしまうかも知れませんが、数年の年月をおいて今なお色あせない姉コミック『S.O.S.』を紹介します。

■姉・姉・弟の三角関係

『S.O.S.』は、全８話構成のストーリー作品です。登場人物は、長女の千代姉、次女の千夏姉、そして末っ子・ゆうた。（いずれも高校生）

千代姉は弟を優しい目で見守るお姉ちゃんで、千夏姉は弟をからかいながらいじる姉貴型。そんな二人の姉に挟まれて愛される幸せ者の弟を眺める姉コミックです。

成年コミックなので、当然に H 主体ですが、入れ替わり立ち替わりに今度は誰で次は誰で……のような単なるただれた姉弟関係を描いただけのものではないことははっきりと言っておきます。

もちろん H シーンの質と量は十分ありますが、本作の見どころは、ブラコンのお姉ちゃん二人とその弟の姉弟三角関係を追うところにあります。

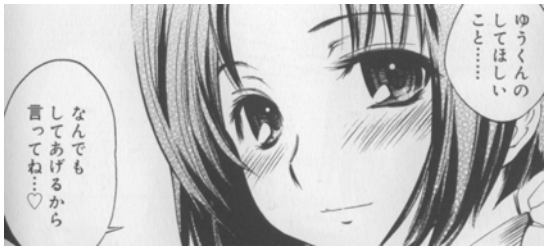
三角関係って言っても、修羅場がある訳じゃありません。共に弟のことが大好きなお姉ちゃん２人が、お互いのことを気にかけつつ弟と関係を深めていく様子が中心。

ここで各お姉ちゃんの紹介。

長女の千代姉は、おっとり天然型で母性の持ち主。エプロン姿がお似合いで、弟の面倒を見ることに長け、弟にあーんして食べさせて姉としての幸せを感じてしまう人。

弟に対しては意外にも積極的。ゆうくんをその気にさせるのが上手く、しかし火をつけた後は、したいことは何でもしていい

のよと年頃の弟のガツガツした欲望を受け止めてくれる器の大きいお姉ちゃん。



次女の千夏姉は、ショートカットが象徴的な、活発で強気な姉。ゆーたはおもちゃ扱いで、弟はアタシの家来的なノリ。

弟のことは軽くからかったりいじめたりして楽しんでしまうタイプ。

でも、それは典型的な「構って欲しくて、好きだからいじめてしまう小学生」心理の表れなのです。

ゆーたのことが好きなら、ストレートに迫っちゃえばいいのに、それができないのは上の姉・千代姉の存在がありました。

……小さい頃から、自分ではなく千代姉に懐いていた弟のゆーたの姿を見て、どうしてよいか分からず行き場を失った感情と、何とか弟の気を引きたいとの思いが膨らんで、ゆーたを軽くいじめてしまう千夏姉。

でも、本当は彼女も弟を可愛がりたいと思っている純真な姉心の持ち主。後に心を開いた時のデレっとした態度は、ブラコン姉ファンにはたまりません。

そんな千夏姉が転機を迎えるのは、千代姉がゆーたとしているのを偶然目撃してしまった時。

姉という生物は、弟に彼女が出来るとうろたえてしまうものですが、それは「彼女」が自分の姉であった場合も同様、いいやそれ以上。他人なら追い払えば済む話でも、肉親では話が別。自分と違って、器用で女性らしい千代姉への妬みがあったかも知れません。ただ、最も大きかったのは、３人姉弟の間で自分だけがのけ者にされてしまった……そんな感情でした。

寂しさを埋めるかのように弟を求める千夏姉でしたが、ついに千代姉にばれることなります。

妹の寂しかった気持ちを見抜き、ゆうたと同じように愛情を注ぐ千代姉。自分を理解してくれた姉に甘えまくる彼女の姿は、ゆうたと同じ１人のシスコンでした。

『S.O.S.』は姉に挟まれる弟の話、と冒頭で書きましたが、実は三角関係の重心は次女の千夏姉だったのではないでしょうか。なぜなら、自分を差し置いて親密にする姉と弟に対する嫉妬や対抗心と、それらから解放される過程がストーリーの中で最も印象に残る描き方がされているから。

次女・千夏姉が、姉と弟に挟まれ、揺れ動く想いを追ったブラコン×シスコン物語。

千夏姉の複雑な気持ちを想像してしまった筆者には、これこそ『S.O.S. 』最大の見どころと思わざるを得ませんでした。

■アニメ+ノベルでもっとSOS!

約６年の年月を経てアニメ化とノベライズが実現した『S.O.S.』。

アニメはイチャイチャHで大興奮モノ。

ノベライズは、原作とリンクした３姉弟の日常や回想シーンを新たに描いたもの。ライターには『姉しよ』番外編ノベルを手がけた佐々宮ちるだ先生を起用。姉品質に問題はないのはもちろん、原作シーンを面白く膨らませてくれていました。

満開！　Sister

著者	東屋めめ
発行	芳文社まんがタイムコミックス
発売日	2011 年 9 月 22 日

古風な男子高校生、古谷武士(たけし)は父と二人暮らし。しかし、まさかの父の再婚により突如グラマーで自由奔放な母と姉、可愛すぎる小悪魔な妹が出来て生活は一変し…!?

■まるで姉ゲーのような？

父と二人暮らしの男子高校生・武士。

ある日、父の再婚により、義理の母、姉、妹ができて、一緒に生活することに！

男所帯で育った武士にはちょっと刺激が強すぎて……？　という、まんまギャルゲー的な設定の４コマ漫画です。

姉と妹に挟まれている状態で目が覚める第１話冒頭のシチュエーションも極めてギャルゲー的。

くっ、こんなありがちで分かりやすい設定の漫画には簡単に乗せられないぞと気を引き締めたのも最初の１分が限界。

遠慮なく抱きついてくる姉、甘え上手にしがみついてくる妹、マイペースの「あらあらまあまあ」なママ。

イイネ！　女家族サイコー！

■突然の姉妹同居生活に…

主人公・武士(たけし)は 17 歳の高校生。

武士道かぶれで硬派な日本男児を目指している。(が、独特な解釈で勘違いした方向性に走っている。)

そんな彼にとって、女性に心を動かすようなことはポリシーに反するわけで、新たに暮らすことになった姉妹と母は、家族として受け容れられても、女性の部分を意識して困惑させられっぱなし。

武士道や日本男児云々はさておき、新たにできた姉妹にドキドキさせられ続ける彼の心情は、リアルで姉妹のいない“負け組男子”達には共感度 200％で伝わってきます。

―自分と同じ年頃の女の子と暮らす生活。

一つ屋根の下で寝起きし、食事をし、着替えをし、お風呂もトイレも共用。

姉妹持ちには何とも思わないであろう事実が、負け組にはあまりにも遠い世界。

降って湧いた姉妹との共同生活に戸惑う

ばかりの武士の姿は、筆者を含め、負け組男子そのもののシミュレーションです。

だからこれは、姉を望んでも手に入らない負け組こそがもっとも楽しめる漫画。すでに姉と暮らす生活を知っている勝ち組の弟には、根本的な部分で読解不可能な漫画なのです。

へへーん、悔しいだろー！

あ〜あ、負け組で良かったー……。

■魅力的な姉、妹、ママ

父の再婚で新たに家族となった姉妹は、カンナ姉（19歳）とさくらちゃん（10歳）。

カンナ姉は、チア部の他にいくつもクラブを掛け持ちする活発な体育会系女子大生。

新たにできた弟である武士を可愛がり、過剰なスキンシップで愛情表現を迫る何とも困ったお姉ちゃん。

性格はいつも笑顔で大らか。義理とはいえ、弟の前では無防備で、薄着を好む。

脱衣所でばったり出くわしても動じないどころか「一緒にお風呂入る？」と誘ってくる、大変けしからん姉。

昼は後ろからの抱きつき攻撃、夜は弟の布団に潜り込み、妹と一緒に弟をはさみうちして抱きつくのが大好き。

女性に免疫のない弟のことをドキドキさせているが、姉本人にはからかうつもりは一切なくて、ただそこにあるのは、「姉弟なんだから気にしなくていーじゃん」的な気安さ。

妹とは一緒に寝て、お風呂に入り、ハグする彼女にとって、弟も妹と同じ。武士をよそのオトコとして見ず、家族の一員である弟として見てくれる姉精神に敬服します。

いつもは「カンナ」と呼び捨てする弟が、たまに「姉さん」と呼んでくれると大喜びしたり、意外にも家庭的で弟のためにお弁当を作ってくれるなど、姉的基本能力は高め。

そして、妹のさくらちゃんは、可愛いもの好きで甘え上手な小学生。主人公のことをお兄ちゃんと呼んで、キラキラした目で甘える純粋な子。

かと思ったら、小悪魔で計算高い一面が時々現れるんですが、本当にちらっとよぎるだけなので、もしかしたら気のせいかも知れません、ハハハ。

母の椿ママはゆるふわ系美熟女。新たに息子となった武士を娘達同様に見守ってくれるが、謹厳実直で寡黙な父と新婚ラブラブ状態のため、幸せで舞い上がっている。

■ずっと姉が欲しかった貴弟に

ある日突然、お姉ちゃんや妹と一緒に暮らすことになったらどんな感じだろう、こんな感じになったらいいな、という寂しい男子の妄想を漫画にしてくれたような姉４コマです。

遠慮なく弟に構いまくりのカンナお姉ちゃん、うちにも来てくれないかしら。

姉は傍にいまし、
世はなべてこともなし

著者	清末邦彦
発行	コミックハイ連載 アクションコミックス
発売日	2011 年 10 月 12 日

マイペースで風変わり、
好奇心旺盛な発明家気質の姉・綾と、
家事から格闘術まで万能にこなす常識的な弟・ナオ。
何かとハイスペックな姉弟の、
差し障りのあるようでないような日常生活を描いた
ショートストーリー全 15 編を収録の第 1 巻！

■過干渉の姉は好きか！？

諸君！

弟に構いっぱなしでお節介系の世話焼きお姉ちゃんは好きか！？

弟のことに興味津々でストーカー気味のお姉ちゃんは好きか！？

弟のそばから離れられない依存症傾向のお姉ちゃんは好きか！？

よーし、それならこの綾お姉ちゃんだ。

さらに聞く。

何にでも興味を持って首を突っ込んで、騒動を引き起こすお姉ちゃんは好きか！？

知的好奇心を抑えきれず、弟を手頃な実験台にしてしまうお姉ちゃんは好きか！？

弟を研究の対象にして、おちんちんの大きさまで観察するお姉ちゃんは好きか！？

ここまで付いてこられた優秀なエリート弟なら、綾お姉ちゃんの弟になる資格がある。

覚悟して後に続け！

■風変わりな姉とまっとうな弟

主人公は中学生の姉弟、綾と直樹。

ちょっと、いやかなり風変わりな姉と、まっとうな弟の日常を描いた、１話８ページ読み切りのショートストーリー漫画。

綾姉ちゃんは中学生離れした自然科学全般の知識と発明家気質の持ち主。科学者にありがちな、変わり者でマイペースな思考回路の中学３年生。

何事にも興味を示し、気になることはすべて観察し、事細かに記録。思い付いたことはすぐに実験と実践。

それに付き合わされる、と言うより、巻き込まれるのはもちろん弟の直樹の役。

姉のように奇抜な性格とは違い、常識的で平均的な中学生男子。家事がかなり得意だが、それはもともとの性格なのか、あるいは家事がまったくできない姉の面倒を見てきた結果なのか？

本作の各話の基本的な流れは、

綾姉ちゃんが何かに興味を示すor何かを思い付く→やってみよう！→身近にいた弟巻き添え→弟は呆然、姉は平然

のような感じ。

つまりは「お姉ちゃんの奇行に振り回される弟」型の姉コミックです。

綾姉ちゃんと来たら、おかしな発明品で弟に痛い目を遭わせるわ、できもしない料理に手を出して弟を困らせるわで、直樹には気の休まる暇がない。

でもこれは、幼い姉弟がどこへ遊びに行くのも二人一緒で、姉の後ろをトコトコ付いていく弟の姿の延長。お姉ちゃんに構ってもらえて幸せじゃないかと、負け組の小弟は羨望の眼差しで直樹を見てしまいます。

１巻で姉が興味を示したのは、筋トレ、日曜大工、肩車、相撲、庭仕事、第二次性徴と幅広いのですが、２つほど話をピックアップしてご紹介。

「姉とモニタリング」

家中の状況を事細かに把握している綾姉ちゃん。なぜ分かるの？　と問いただしてみると、取り出したのは湿度温度赤外線マイクロ波震動磁気センサー付き小型カメラ。これを家中に張り巡らせて、集中モニタリングしているという。もちろん、カメラは直樹の部屋にも取り付けられ、起床時間、朝食の内容、お通じの様子から、おちんちんをチャックで挟んで悶絶したことまで把握していらっしゃる！？

弟ストーカーの域に達している姉に、プライバシー侵害だと抗議するが、綾姉ちゃんには一応の正当化する理由があって……。

綾姉ちゃんは直樹のことを大事な弟だと思っていて、いつまでも一緒にいたい身近な家族として気にかけてくれているのは確かな事実。ただ、ちょっと科学者的な思考のせいで、大事にする方法がずれているだけなんです。弟を単なる生物的な観察対象と見ているだけではないんです、多分！

この話に限らず、本作ではよく姉弟の回想シーンが現れるのですが、そのどれもが互いに離れ離れになることを拒み、いつも一緒にいることを望んだ幼い姉弟の記憶。

この回想のおかげで、姉弟の関係にグンと深みが出ます。

今では、困った姉ちゃんだとグチを言う直樹も、本当は姉離れできないのがバレバレだし、綾姉ちゃんも実は昔から弟と一生添い遂げたいくらい弟依存症であることが読み取れるのも回想シーンのお陰です。

「姉と日曜日」

日曜日だからとベッドから出ず、だらだらする姉に、「姉ちゃんも少しは家事を覚えないと将来困るぞ」と声をかけると、返ってきた答えは「構わない、ナオがいるもの」と弟に面倒を見てもらう気満々。

挟み込まれる回想では、珍しく直樹が男を見せるシーンと、姉ちゃんが一生弟に面倒を見てもらうと心に決めた出来事が……。

弟にとっては恥ずかしい証拠画像もお姉ちゃんはしっかり保存済み。

理解不能な行動で弟に苦労かけっぱなしの綾姉ちゃんですが、弟を困らせようなんて気持ちはなく、大事な弟がずっとそばにいて欲しいと願うだけ。

ちょっとおかしな姉ですが、中身は弟離れできていない普通のお姉ちゃん、なのでした。

百合×薔薇

著者	伊藤ヒロ
イラスト	高見明男
発行	集英社スーパーダッシュ文庫

「―べにお、ちょっとよろしくて？」

そんな姉の一言から、花邑べにおの人生は激変する。

一般家庭の姉およそ九割がそうであるように、べにおの姉・しらゆきは暴君である。

その姉から渡された一着の制服。

これに着替えろと言われたべにおは、花使い（リリス）を養成する女学院に転入させられることに。

さらには転入の挨拶で、「この女学院を支配（しき）ります」と言わされた結果、仲良くなれそうだったクラスメイト、弥鈴とも争うことに。

べにおの使う《花》超銀河伝説剣は圧倒的な力を誇り、一年Ａ組の生徒たちをことごとく倒してしまう。

だが、そもそも《花》の力は思春期の女子にしか使えないもの。そこには姉・しらゆきのとあるいんちきが関係していて…？

――僕の名は“姫百合の君”花邑べにお。

のちに“姫百合姫”の名で関東全域の女学院生２０００余名から、

『お姉様』

と呼ばれる男子だ。

■女学園+女装モノとはいえ…？

秘密の花園の異名を持つ国立バーネット女学院は、特殊能力をもったお嬢様が通う乙女の園。

お互いを「様」付けで呼び合ったり、聖杯の契りを交わした二人は「お姉様と妹」の関係になったりする風習のある女学院が舞台と聞けば、スカートのプリーツは乱さず、白いセーラーカラーは翻らせないようにゆっくりと歩くのがたしなみのあの女学園モノを思い出すはず。

そんな乙女の園に入学することになった主人公は、正真正銘の男子・花邑べにお。

もちろん、男子禁制の女学院に男のままで入学できる訳もなく、そこは性別を偽り、女装して通学することになると聞けば、祖父の遺言により女子校に無理やり女装して転入させられ、お嬢さま学院で全校生徒の「お姉さま」に選ばれてしまうあの男の娘モノを思い出すはず。

ここまでは書き手・読み手双方にとって暗黙の了解事項。

その女学園モノも男の娘モノも、いずれも「お姉さま」がキーワードになっているのに、好みの問題として個人的にはブームにならなかったこともあって、本作も同じような先入観があったのですが……

これは違った。面白かった！

既に名作が使った舞台の上で、ひとひねり加えた設定とストーリーが展開。そして何より、全姉連的には、べにおの姉・しらゆき姉さんが終始登場し、笑顔でしれっと主人公に無茶をさせるのが非常に楽しく、同級生や上級生に負けない存在感を放つ姉ノベルに仕上がっていたのです。

■ニコニコ暴君・しらゆき姉さん

主人公べにおとその姉・しらゆき姉さん

は、古い団地に二人暮らし。（この庶民臭さを織り交ぜているのが某女学園モノに比べて取っつきやすいところ。）

べにおはごく普通の高１男子だが、姉さんは女学院２年生で、「でしてよ」「よくってよ」口調の眉目秀麗・文武両道の大和撫子。

そんな姉を持つ弟として生まれれば、自慢の姉として敬慕し、そして、姉の教育によって従順な弟として育つはず……なのですが、しらゆき姉さんが存外な暴君。

顔には笑みを絶やさず、弟に手を上げたり足蹴にしたりなんてことはないのですが（尻に敷いたりくらいはする）、弟の意思はお構いなしの姉命令を下し、意のままに操る横暴姉、弟の言葉を借りれば暗黒大魔王。

「貴方、今日から妾（わたし）の女学院に転校なさい」

この一言を皮切りに、嫌がる弟にセーラー服や下着一式を押しつけ、しぶしぶ着替える弟を眺めてうふふと微笑むしらゆき姉さん。自らは手を下さず、あくまで弟が自発的に着替えたのだと言わんばかりの笑顔は、「しらゆき」の名前と裏腹の通称黒笑顔。

冒頭のこの一件だけじゃない。自分が立てた企み……いや計画を、この通り実行するようにと弟に強要……いや協力を要請し、上手く行けば私に感謝なさいと言い、弟の機転で危うく難を逃れても私に感謝なさいと言う。それも満面の笑顔で！

ただ、弟がピンチになると、颯爽と現れるくらいの優しさはある……かと思いきや、

「実を言えばさっきから、そこで隠れて見てたのだけれど……そろそろぎりぎりのようだし助けてあげるわ」

姉さん、ヒドイ。

姉さんの無茶振りにあたふたジタバタもがく弟。陰に隠れて展開を見守り、抜き差しならなくなってからようやく登場する姉。

こう言うととんでもなく意地悪い女に見えるかも知れませんが、表面的には常に笑みをたたえ、物腰柔らかで素敵なお姉さまだけに、嫌な性格は感じません。決して弟が嫌いな訳ではないし。弟が困っているのを見て楽しくなってしまうのも、姉さんが隠れＳだから仕方がないのです。

「べにおは泣きそうな時の顔が一番可愛らしいのだもの。見ている妾こそ、ぞくっとなってしまいそう。」

当の弟本人でなくても、「冗談じゃないよ！」と言いたくなりそうですが、姉の尻に敷かれたい、振り回されたい属性の弟にはたまらないお姉さまなのです。

■姉弟２人セットの姉ノベル

バーネット女学院の女学生は音使い、竜使い、軍事衛星使い、テレポーター、催眠術、肉体改造等々、何でもありの特殊能力の持ち主。主人公はある特殊な剣使い。姉さんもある能力の持ち主で、最強の地位を追われた後、弟を利用……いや味方にして再起を狙うのが物語の本筋です。

ベースは女学園モノでありながら、覇権を賭けた異能力バトルを組み込んで、百合あり、友情あり、知略を尽くしたバトルありの萌え＆燃えが本作の魅力。女学園の「ごきげんよう」的な要素も、男の娘モノの女装のドキドキ感も詰め込んであります。

姉さんの存在も、弟を学院に送り出したらハイさようならではなく、ある事情により弟から離れられないため、放置されることはありません。

物語は伏線を残して現在進行中ですが、姉弟の誓いらしい

「姉弟（ぼくら）はもう、姉弟のためだけに存在（い）る」

この言葉を生むこととなった、姉弟の過去が今後気になるところです。

アネかみ!

1 柱目　姉と女神と俺のパンツ

著者	橘ぱん
イラスト	美弥月いつか
発行	一迅社文庫

八百万の神々が突如姿を消した日本。

湖月町を拠点に新たな神々の再降臨計画が進む中、計画責任者の女神アルテミスの悪ふざけで 15 歳の美少女アイドル「日野照美」の水着写真集から一人の女神が生まれてしまう。

新たな女神の名はヒノテルヒメ。

清楚な笑顔にワガママなオッパイを持つ女神は、町でナンパされていたところを助けた北方尊に一目ぼれ。

半ば強引にホームステイという名の同棲をすることにしたのだが、尊の実姉で学園屈指の優等生でもある北方乙女が弟大好きの隠れヘンタイ属性だったことから、ヒノテルヒメもその間違った知識に毒され立派な変態淑女へと変貌してしまうのだった…。

『だから僕は、Hができない。』(富士見書房刊)の橘ぱんが僅かな理性を捨て渾身の力で放つ、ヘンタイ神様ラブコメディ、衝撃?笑劇?の第一弾、ついに登場。

■神をも恐れぬ姉ノベル

「アネかみ！」の「かみ」は、神様の「かみ」です。ブラコンお姉ちゃんが弟を噛んじゃう意味ではありません。(何の予備知識もなくタイトルを見た瞬間はそうイメージしちゃったんだよ！　ごめんよMっ弟で！)

本書は日本神話やギリシア神話を題材にした神様系のライトノベル。

……とは言っても、序章の初っぱなから缶ビールをかっ喰らう女神様が登場したり、巫女さんが黒ショーツをさらけ出したり、ロリコンの素晴らしさを高らかに謳う禰宜が登場したりと、死後さばきにあうこと間違いなしの不敬シーン連発！

まー、このひどい内容は実はある程度予想していたことですが。

だって、サブタイトルが「姉と女神と俺のパンツ」だし、帯の煽りには

「居候の女神と実姉が俺のパンツを取り合い修羅場ってるんだが」

こう書かれていたらただ者じゃないことくらい分かります。

多少の変態レベルは覚悟して、本編が始まりました。

■清純派の大和撫子姉

主人公・北方尊は、清く正しい日本男児を目指す 16 歳の男子高校生。しかし、その容姿と口調のせいで不良のレッテルを貼られ、望みもしない番長の地位を得ている。

彼には２歳年上の姉、乙女姉さんがいる。

目鼻はスラリと通った美人で、巨乳の一歩手前の無駄のない女性らしいスタイルと美脚の持ち主。おまけに運動神経抜群で成績優秀。周囲の人望も厚く、学校では風紀委員長を務める清純派。

過去の“滅神戦争”時に両親を失うが、姉の強い希望で姉弟二人暮らしを始め、彼女が弟の育ての親となって今に至る、というのが現状。

かくして、姉は良き母となり、反抗期なお年頃の弟も姉には頭が上がらない。

乙女「お姉ちゃんの言うことが聞けないっていうの？」
尊「うぐ」
乙女「お夕飯、尊の苦手なシイタケを入れるわよ？」
尊「……ごめんなさい」

外では品行方正な女子高生でも、自宅では姉弟関係の気楽さから、ちょっと無防備。

風呂上がりにはバスタオル一枚になったり、弟の前で着替えをして下着姿をさらしたり。洗濯物も弟の分と一緒。

気がつくと弟のベッドで寝ていたり、寝ぼけて弟の布団に潜り込んできたり。

ひょっとするとこの姉さん、異性の概念がなく、赤ちゃんがどこから来るのかも知らないのではないかと思わせるほど、思春期の弟にとってはある意味酷な姉。

そんな弟の心を知ってか知らずか、今日も乙女姉さんは、澄み切った笑顔で大事な弟と二人で登校するのでした。

■明らかになる姉の裏の顔!?

おい待て、一体どこに弟のパンツの取り合いシーンなんて出てくる要素があるんだ？　よくできた姉との幸せな二人暮らしじゃないか。

しかし、“エンジェルフォール”で再臨した神・テルヒメの登場によって、この姉ノベルの本性がむき出しになる……。

人間社会に再臨した神を家に迎え、ホームステイさせる制度のあるこの町で、ひょんなことから尊に拾われることになったテルヒメは、世間知らずで純粋な天然系の女神様。

彼女が北方家に迎えられ、とりあえず通された姉の部屋で偶然発見してしまった超極秘日記「今日の尊」シリーズを読んでから、乙女姉さんのイメージが崩壊する！

「尊のパンツと一緒に自分の下着も洗うと、一日中尊に包まれている気がする」
「尊がお風呂に入っている間に脱いだ服をゲット。本当は暫く部屋に置いておきたいけど、それはまずいので、思う存分抱き締めて嗅いだ後に洗濯機に入れた。パンツくらい、古くなったからってもらってもよかったかも」

日記によってバレた乙女姉さんの正体は清純派とはほど遠い、真性の変態系・パンツフェチ属のブラコン姉だったのです！

自らもちょっと間違った方向に走っていると自覚しているブラコン性癖をテルヒメに知られた姉さん。愛する人のパンツを欲しがるのは当然のことなのだと真に受けてしまったテルヒメ。２人による尊のパンツ争奪戦シーンは、いかにブラコン姉好きの弟でも頭を抱えてしまうレベル。

姉の変態系弟魂（ブラコン）は、もちろん尊にもバレてしまい、姉さんが吹っ切れてからがまた楽しい。

「ああ、天はどうして弟のパンツを欲しがることが変態行為とされる世を作りたもうたのですか。ちょっと男の子の大事な部分を包んでいるだけの布キレじゃないですか。それを姉が欲しがる程度、大目に見てくれたっていいのに。」

十数年間ずっと隠してきただけに、お姉ちゃんのブラコンはもはや手の施しようがないほどにこじらせ、治療不可能。テルヒメの登場をきっかけに火が付いた姉さんの暴走が本書の姉萌え的見どころです。

■ヘンタイ姉様ラブコメディ

ブラコン姉が繰り広げる、過剰な弟愛で笑わせるドタバタ姉弟モノが大好きな貴弟ならば絶対に読んでおきたい一冊。

痴女スレスレ姉さんですが、真剣な姉弟愛もあり、姉ノベルとしても十分◎でした。

「姉命令よ、私たちを満足させて☆」

最愛の姉４人と流された先は南の島！

夢のハーレム三昧なうえ、島の果実を食べた姉たちはミルク体質に！

暴走お姉ちゃん・紫（20）に、クールな遼子（19）、妄想系の那々（18）に、ツンデレな綾羽（17）まで！

H、G、F、C――姉の巨乳＆美乳を召し上がれ☆

あまあねハーレム

四姉妹と無人島！？

著者	上原りょう
イラスト	YUKIRIN
発行	フランス書院美少女文庫

■ハーレムの大家が贈る姉ノベル

フランス書院美少女文庫のハーレム派と言えば上原りょう先生。

上原先生の『あまあねハーレム』と聞いて、どこか聞き覚えがあるなと思った貴弟は、立派な美少女文庫通です。

2006 年に発売されたのは『あねあねハーレム　お姉ちゃんはふたご先生』[1]。双子の姉が 2 組も登場して、代わる代わる弟を可愛がってくれる夢のハーレム家庭を見せてくれた名作です。

かつて、もしリアルでお姉ちゃんがいるとしたら何人がいい？　とアンケートを取ったところ、１人と回答した人が意外に多くて驚いたことがあります。確かに現実に 3 人 4 人も姉がいたら苦労しそう。

[1] 2006 年 10 月発行。「全姉連会報 第 6 号」（全姉連ホームページにて公開中）でレビューしています。

でも、二次元では話が別。

妄想無限大の二次元なら、何股かけてもお姉ちゃん達はみんな許してくれるし、何人だって同時に相手できるスーパータフ弟（ガイ）になれるから。

二次元ハーレムって素晴らしい！

■流れ着いた先は無人島!?

お姉ちゃん達とハーレムを築く場所は、タイトル通りの無人島。

プライベートビーチのような別荘地の無人島でリゾート気分でお姉ちゃん達とハーレムかぁ～、参ったなぁ～とお気楽な気分で読み始めたら、冒頭シーンはいきなり嵐の中。姉弟は、汚い漁船の上で海賊達に脅されてるし！？

ハーレムとはほど遠い、絶体絶命の大ピンチ。長姉の判断で命からがら逃げ出すが、漂流した先は無人島。

こうして、姉４人、弟１人のサバイバル生活が始まったのだった……。

こんな感じの、珍しい状況設定で始まる姉ノベルです。

洞窟に住み処を求め、葉っぱで作った服を身にまとい、魚釣りや鳥を狩りながら、救助を待つ弟達。このまま助けが来なかったら、唯一の男の子である弟が頑張って子孫を残さないとね、と迫る姉。姉弟で探検中、スコールで濡れた体を温め合うために……と抱き締めてくる姉。

と、無人島生活ならではの状況で姉弟は

愛を確かめ合うのですが、姉達の様子がおかしくなるきっかけは、長女の紫姉が見つけてきた謎の果実。

美味しいとみんながかぶりついたその果実は、女性ホルモンの分泌を促し、乳腺を発達させる効果があったのだ！

ここまで言えばもうお分かり。姉達のおっぱいは、途端に張り出し、びゅびゅっとお姉ちゃんミルクが……というわけ。

母性の象徴であるおっぱいをちゅうちゅう吸う弟の姿は、姉に甘えたい読者の願望そのものです。愛する弟におっぱいを吸われる姉が恍惚とする姿にも大興奮！

原始的な生活環境だと、授乳・搾乳シーンも普通の行為に見えてくるから不思議。

さあ、果たして姉弟達は無事に島を脱出することができるのか。いや、それ以前に姉４人を相手にする弟の身は持つのか！？

■登場人物

・紫（長女）

一家の長姉である紫姉は、砲弾型 H カップのモデル体型の持ち主。

思いつきと気まぐれで行動するトラブルメーカーで、細かいことにこだわらないさばさばしたお姉さんに見えるが、それなりに弟妹達へのカリスマ性はあり、時には考えがあって行動している……らしい？

弟には積極的にリードして、可愛さ余ってちょっといじめたくなっちゃうタイプ。

「ヨシヨシ。すこしいじめすぎちゃったみたいネ。そんな涙目でニラまないでよ、ただの姉ジョークなんだから」

・遼子（次女）

髪はショートカット、凛とした美しさを持つ体育会系の姉。ボーイッシュな口調で、性格は男前。長女が放任型の姉なのとは好対照で、面倒見の良い姉御肌。

弟妹達に愛情を注ぎ、大事に育て上げることが自分の務めと信じる真面目な姉さん。ただ、エッチな方面は照れ屋で強がり。

（弟相手にいいようにいじくられて、ツバまでのませられてしまって……ああ、こんな時でも、身体が燃える……お、おっぱいがとまらないなんて！）

・那々（三女）

話し下手で恥ずかしがり屋、妄想し出すと止まらない性格のフシギ姉。長い前髪で片眼が隠れていて、一見根暗風。でも、弟くんとはいつか結ばれたいと思っていて、スイッチが入ると妄想一人芝居モードになり、しばらく帰ってこられない。甘えられると喜んで応じてくれる優しい姉さんです。

「……う、うん……弟くんが、のぞんでくれるなら、……ナナは、弟くんに、はじめてを、……さ、ささげたいと、思います」

・綾羽（四女）

弟より一つ年上の 17 歳。年齢の近さから勉強も遊びも常に一緒で、友達のように接してくれる。「私は虎太郎のお姉ちゃんだから、虎太郎の面倒は私が見ます」と“虎太郎係”を宣言した姉。でも、逆に弟に面倒を見てもらうことも多くて……？

お姉さん風を吹かせ、意地っ張りな面もあるが、それだけに素直になると可愛さが引き立ちます。

「虎太郎が望むことは全部してあげたい。だって私は虎太郎のお姉ちゃんだから」

■４人姉のボリューム

何者にも邪魔されない開放的な無人島で青空の下、姉弟イチャイチャ。

争奪戦や協力プレイの要素がもっと強ければなお良かったかと思いますが、濃厚描写たっぷりの多人数姉ノベルでした。

おねガン！

メーカー	スタジオ５気筒
ジャンル	処女（おとめ）なお姉ちゃんズに迫られちゃうＡＤＶ
発売日	2011 年 4 月 22 日

■実の姉 vs 新米姉対決

主人公は、学園に通う普通の男子・雅也。

２歳年上の姉・美琴お姉ちゃんも同じ学園に通い、両親は仕事の関係で不在がちなため、姉弟二人暮らし。

両親に代わって保護者となっているお姉ちゃんは明るい性格のしっかり者で、弟の世話を焼くのが大好きな……長くなりそうなので、短く４文字で表現すれば「ブラコン」。

弟の面倒をみて、大事に育てることが姉の生きがいと言わんばかりの姉ではあるものの、異常に溺愛したり、弟のパンツに興味を持ったりするタイプではなく、ちょっぴり過保護なだけ。

でも、「私のまーくんに彼女ができちゃったりしたらどうしよう」とうろたえるほどの小姑予備軍。

そんなブラコンお姉ちゃんを慌てさせてしまうのは、姉ライバルの出現でした。

偶然街で出会い、「あなたこそ理想の弟よ！」と声をかけてきた、財閥の一人娘である坂上絹子。

彼女が主人公の姉宣言をして強引に同居し始めれば、温厚な美琴お姉ちゃんも黙ってはいられません！

今ここに、「雅也のお姉ちゃんとして相応しいのはどっちだ？選手権！！」がスタートした……！

青コーナーの挑戦者、絹子お姉ちゃんは、ストレートに弟好き好き光線を発射し、とことん甘やかす。

対する赤コーナーの王者・美琴姉は、自分が恥ずかしがり屋のせいでできなかった弟とのあれこれを次々実行してしまう絹子はずるい、私の方がずっと前からお姉ちゃんだったのに……と悔しくなって、いつもより大胆な姉行動に走ってしまう。

こんな構図の姉対決なんですが、実はシステムがかなり面白さを削いでしまっています。

このゲームの進行は、毎晩どちらの姉の部屋に行くかを選択し、選んだ姉とイチャイチャして段々と H になっていくもの。

プレイヤーとしては、当然狙った姉の方を毎晩選択することとなり、その結果、選ばれなかった方の姉は完全に空気。対決も何もあったものではなく、一方の姉との仲が深まる過程しか追えないのです。

この手の姉ゲーで期待するのは、二人の姉が真っ向から火花を散らして弟を奪い合ったり抜け駆けしたり、でも時にはブラコン同士で手を結んで協力プレイ、なんて展開からにじみ出るお姉ちゃん達の弟愛を感じてニヤニヤすることなのに。

それぞれのお姉ちゃんの個性は魅力的で、

サシで付き合う分には良いのですが、三角関係姉弟というテーマは活かされなかった点が非常に惜しまれました。

■キャラクター

・北島美琴

主人公の真の姉。

弟の面倒を見ることがもはや趣味で、朝起きてから夜寝るまで世話を焼いてくれる、過保護気味なお姉ちゃん。

何でもそつなくこなせる器用な姉だが、実は奥手で、エッチなことが苦手。

しかしそこはお姉ちゃん。精一杯の勇気を出し、「いつかまーくんに彼女ができた時のために」と言い訳して、女の子のことを教えてあげると顔を赤らめて、まずはキスから……　くはーっ！　くはーっ！　美琴お姉ちゃんの可愛さはここですよ！

「あのね……お姉ちゃんは、まーくんに女の子のことを教えてあげる。ほ、ほらっ、この先まーくんに彼女が出来てね、たぶん、いろいろ困ると思うの」
「ね、お姉ちゃんと……練習してみよ？」

一度決めたら、みい姉一筋に生きるのが弟として当然ですが、攻略中に浮気心を出してしまうと……ブルブルブルブル……。

・坂上絹子

※以下、少々ネタバレ入ります。

財閥の一人娘。思ったことはすぐ口に出して行動してしまうが、悪気はなく、自由奔放が過ぎる人。

街で出会った主人公を理想の弟と見初め、可愛がってくれる。

姉初心者である彼女は、通販サイトで「お姉ちゃん」と名の付く姉ゲーを買いあさり、姉弟とはどういうものかを学んだせいで、間違った方向に積極的。

ゆえに、「弟とエッチなことがしたいだけの痴女」に成り下がる危険もあったのですが、彼女のルート後半、主人公との別れを切り出すシーンに現れたこんなセリフで、彼女が姉を目指す本気に触れました。

「私はお姉ちゃんとしてではなく、一人の男としてキミに惹かれてしまった。これでは、お姉ちゃん失格だからな」
「姉が弟と男女の仲になって愛し合う。それは私の中でのルール違反だ」
「私はお姉ちゃんとして純粋に、弟クンのことを見ていたのだ。それを破ってしまうと、絹子の中の何かがにごってしまうんだ」

雅也との関係が、崇高な姉弟の関係からただの男女の関係に堕落してしまったことに気付いてしまった彼女。

姉ではなく女として好きになってしまったことを告白し、雅也を好きなのは変わりないのに別れを選んだ彼女の「姉」としての本気、伝わるでしょうか。

初めは姉弟関係に憧れているだけの薄いキャラかとも思ったのですが、真剣に姉と弟のつながりを望んでいたことを示すこのシーンでガツンと評価が上がりました。

姉弟脱却型なのにも関わらず、姉ゲー的には成功した珍しいケースでしょう。

■キャラは良いが、もう一歩！

立場も性格も違う姉に対決させるストーリーを用意したのに、それがほとんど活かされないシステムがつくづくもったいない。

断片的には姉ゲーの楽しさがあり、絹子お姉ちゃんルートには興味深いシーンもあるので、あともう一息、でした。

2011 年は東日本大震災、原発事故と、大変な年になりました。
被災された方々には、お見舞い申し上げます。
今こうして無事に全姉連の活動が続けられていることに感謝するとともに、被災地域の一日も早い復興を願ってやみません。

さて、コミケでの全姉連はギャルゲージャンルで活動しているように、基本は姉ゲーの紹介なんですが、どうもここ最近は姉ゲーが低調です。
Web 上の「今週のお姉ちゃんチェック」の更新のため、月末発売のタイトルはほぼ一通りチェックするのですが、“お姉ちゃん”を中心に据えたゲームがすっかり減りました。一方、妹キャラがメインのゲームはじわりじわりと増加中。
妹萌えは、姉萌えと向いている方向は逆でも、立ち位置は背中合わせなので、敵対する気はないのですが、業界がもう少しこちら側寄りになっても、ねえ？
だが、妹ブームに後れて姉ブームが来ることは経験しているところ。

来年が楽しみですね、フフフ……。

全姉連会報 第１６号

発　行： 全姉連 総本部（http://www.zenaneren.org/）
発行日： 2011 年 12 月 31 日
著　者： 全姉連総裁

連絡先： so-sai@zenaneren.org

表　紙： 珠樹やよい様
（やまぐちぷりんと http://shirayuki.saiin.net/~yamahomuura/）
印　刷： 株式会社ユリクリエイト様

本書発行に至るまで、全姉連を通じて多くの同志から姉ゲー情報を頂きました。ここにお礼申し上げます。
本書へのご感想、ご意見、ご質問はお気軽に上記連絡先までお送りください。

ZEN-ANE-REN PRESENTS ELDER SISTER ONLY MAGAZINE